第6回燕市下水道事業経営改善戦略策定委員会 会議録

日 時	令和6年10月24日(木) 午前9時30分～午前11時30分まで
場 所	燕市役所 2階 会議室 201
出席委員	中東委員、幡本委員、木戸場委員、安井委員、田邊委員、田中委員、平原委員、渡邊委員、木村委員(9人)
欠席委員	高野委員
事務局	都市整備部長、下水道課長、下水道課職員5名、企画財政課職員1名
報道機関	なし
傍聴者	なし

1 開会

(事務局)

当初予定していました市長への報告内容につきましては、次回、計画案の確定の際にご説明させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

2 委員長あいさつ

(中東委員長あいさつ)

3 協議題

(1) 経営改善戦略(素案)について

(委員長)

先ほど説明がありましたように議題が2つあったのが1つになったというところですが、協議題(1)経営改善戦略の素案について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

(委員長)

ありがとうございました。

章立ては総務省が示す立てつけに沿っているということになっています。

個人的には、章立てとしては少し細か過ぎるような気もしますが、おおよそ流れとしてはこのような形ではあります。これまで議論を積み上げてきて、それぞれのパーツを作っていきましたが、素案はそれを合体させたものです。このまとまったものをベースに皆様から最終案に向けてご意見があればいただいきたいと思っております。

章立てに従って話をしていきたいと思っておりますけれども、まず第1章はじめにということで、ここは、見直しますということと、総合計画を反映してほかの計画と整合を図ってつくっているということ、計画期間が書かれていますが、これについてご質問等があればお願いします。

ないようですので次に第2章です。

第2章は事業概要ということで、現在の下水道事業の概況とか、現状の話になっています。第2章については事前質問がありますので、事務局から回答をお願いします。

(事務局)

冊子の9ページをご覧ください。9ページに表がありますが、その表のうち、収益的支出というのがございまして、その中に、経費がございまして、(2)の経費の中にさらにその他というこ

とで、令和2年度ですと2億6,222万7,000円が計上されていますが、金額がの中で一番大きいというところで、まずその内訳について教えていただきたいというところと、その他が一番大きくなるというところの部分で項目の再考をしてはどうかとご質問いただきました。

回答といたしましては、現在、処理場などの管理委託をしているわけですが、その他は主に委託料が計上されており、その結果として大きなウエイトを占めています。

委員おっしゃる通り分かりづらさもありますので、例えば委託料という項目を1行足すなどして次回修正させていただきたいと考えています。

次のページ、10ページです。同じく表がありますが、その表の一番下に、補填財源不足額に関して、各年度マイナスになっているということは不足額がマイナスなので、補填財源不足が生じていないということを意味するだろうと思いますが、分かりにくいというご意見をいただいております。

確かに委員ご指摘の通り、不足がマイナスなので財源不足が生じていないという構成で分かりづらさがございますので、変更ができるのであれば次回までに修正したいと考えています。

(委員長)

確かにご指摘の通りかと思います。適宜修正していただければと思います。

第2章についてほかにいかがでしょうか。

概要について、概要は最終的にどのような位置づけになるのかをお聞かせ願えますでしょうか。

(事務局)

概要版については、ホームページなどで冊子と合わせて掲載し、より分かりやすい一目で分かるような形で公表させていただく予定です。

(委員長)

分かりました。

そうしたときに現状が2行で終わってしまうというのは若干少ないような気がしますが、今後どう立てつけるか、概要版として立てつけるときにどう書くかというのは、議論の余地があると思っています。概要版として見たときに第6章が非常に大きくて、それでいいのかというのは思っているところで、投資計画を具体的にどれぐらいの規模でどれぐらいあるのかというところをどこまで示すことが必要なのかというところあります。現在配布されている概要において2章が少し簡易すぎると思いましたのでコメントさせていただきました。

ほかにいかがでしょうか。

(委員)

全体的にととも私たちが行ってきた内容がつぶさに書かれているなど思ったんですが、第4章の課題が四つで、この内容に対しては異論ないのですが、一番最後の一般会計繰入金金の増加により、一般会計や市民サービスに影響が及ぶ可能性がある、これがこの会議を行う必要があった問題の一つではないかと思うので、順番を上を持っていくことはできるのでしょうか。まず目に入って、この問題点をまず感じていただきたい。

(事務局)

事務局としては、下水道の経営という視点に立っているので、使用料単価を先に出したいと考えています。

経営を改善することによって市民サービスの影響が緩和されるというような、ストーリー的なものもあると考えています。

(委員)

そのお考えは十分に分かりますが、お金を払うのは市民なので、まず市民の方から同意を得るためには、それは大変だ、と思っていただかない限りは、同意を得られないのではないかと思います。

(委員長)

これも冊子の中を読めば分かりますが、これを一枚紙で世に出すということをするときに、どれを強調していくのかというところのご指摘だったのと思います。これをいわゆる概要版として出すときに、どこに力点を置くべきかという論点かなと思いますので、概要をどうやって議論するかは難しいところもありますが、これだと素直に章立て通り書いているところもあるので、内容ベースでつくり直すというのものもあるかもしれないというのが委員の示していることかと思えます。

2章は基本的に現状を淡々と記述するというところでよろしいですか。

(事務局)

その通りです。

(委員長)

経常収支比率、経費回収率なども、事業概要の中で記載されることになりますか。

(事務局)

はい。

(委員長)

概要ではあまり現状分析を踏まえた課題は出さないのでしょうか。この部分が課題なのでそれに対してこのような対応をしていく、という書き方でもいいかもしれません。

概要として第2章が2行というのはやはりやや少ないような気がするのですが、御検討いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(委員)

本体の2章、グラフの例えば縦軸は、0.00%とか普通は書かないと思うので、そういうところは出典の総務省のように合わせて作っていただければと思います。また、ぱっと読んだときに、例えば13ページの図の2の10とか、2の9とかを読んでいくと、燕市の棒グラフが出てこない。例えば13ページだと、累積欠損金が発生してないからゼロというのは読むと分かりますが、例えば16ページのようにゼロの棒グラフがついていないものだったら、図の下などに脚注があると分かりやすいと思います。

(委員長)

グラフの場合、ほかと比べてどうかということを示す意味が重要なので、0.5刻みまでしなくても、1%刻みとか、厳密に数字にそれほど意味がないところがあるかどうかと思いますので見せ方についてはご検討いただきたいと思います。

全体的なことでもありますが、2章では現状分析のところだけで量をとって、これを、本文中にどの程度埋め込んで、あとは付表にして後ろに持っていくという方法もありますが、今回の場合は全部盛り込んだ形としていますがその点はどうでしょうか。

(事務局)

グラフは幅もあってかさんでいる部分であり、内部でもそういった意見もありましたので、皆さんからご意見をいただいた中で、これを例えば参考資料にして後ろのほうに持っていくという方法もありますので、それがいいということであれば検討させていただきたいと思います。

(委員)

全体的に見てどこにまず重きを置くかと思ったときに、2回目の会議のときに、燕市と類似団体、県全体と比べてこんなに違う、そんなに低かったんだ、高かったんだというのが、物すごくインパクトがあったので、それを最初のほうに持ってくると、取っ掛かりとしては分かりや

すいのかなと思います。あと細かい計算式や分析など読み応えがあつて、なるほどと思ったんですけど、それをもうちょっと突っ込んだときに後ろのほうに補足資料があるのもいいのかなと思います。パーセンテージ5パー刻みというのも、下と真ん中と上と、それぐらいで、ぱっと見ると全体の半分以下だねとか4分の3とかというのが分かるので、見せ方についてポイントの優先順位をつけたらいいのかなと思いました。

(委員長)

ほかにかがででしょうか

(委員)

伝えたい数字や言葉に、例えばアンダーラインとか、色を変えるとかその文章の中に伝えたいところに目が行くように感じてもらうと全部読まなくてもいいので、要点が伝わるようにしていただければいいかなと思います。

(委員長)

これまでのご指摘を踏まえると、概要版の構造の大転換をしなきゃいけないですね。

ただやはり読者は市民なので、そこは意識しないといけない。だからこそこの概要版をつくらうという意図もあったと思うので、見せ方についてご検討いただければと思います。

(委員)

資料を後ろにまとめたほうが良いというような案もありましたけども、私どもも今、紙で見っていますが、多くの方がホームページで見たときに、本文を読んでいて、資料見たいときはずっとめくっていかなくちゃいけないので見づらいと思います。資料が多すぎるということであれば割愛する形が良いと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

確かに紙媒体とホームページ上でファイルを見るものとは少し違うので、本体と概要をどううまく使い分けるかということとも同じようなことかもしれません。

ほかにかがででしょうか。

(委員)

それを踏まえるとこの概要が一番重要になってくるのだらうと思います。6章のところを一番議論して、ロードマップにしましょうと皆さんで決めたので一番重要なところなのかもしれないですけど、例えば上の左の棒グラフを見ても、その意味が分からないですよ。やはり事業概要のところの現状について、下水道料金が燕市は安い、安いのはいいけど、税金使っているのだというところをこの1枚で分かるようにしておかないといけないような気がします。

(委員長)

本文はある程度総務省の決まった書きぶりというのがあるので、先ほど委員もおっしゃったように、ホームページで見せるという観点で見ても、本体は動かさずに概要をどう作るかというところになってくるのかもかもしれません。

事業概要のところはこの後の展開においても重要で、現状がきちり見えてないといけないのだらうというのが委員のおっしゃることかだと思いますのでご検討いただければと思います。

つぎに第3章ですが、ここでは現状がベースになっていて、今後どうなっていくか、特に人口と、施設の建てられたタイミングなどを踏まえて今後10年程度の見込みが書かれているところになります。ここについていかがでしょうか。

ここも人口が減ることと、更新が問題になることと、一般会計からの補填ということ、この三つが主となりますけれども、ここは概要版でも比較的丁寧に書いてある。もう少し端的に変えてもいいかもしれないとは思っておりますが、厳密に書くという形になります。

(委員)

全ての市民に分かっていただけるようにするためには、私たちが普通に知っている言葉でも、分からない方がほとんどだと思います。たとえば、この一般会計繰入金を使ってはいけないのか、本来何に使うものなのか、使うとだんだんサービスが悪くなると書いてあるが、使っているということは使ってもいいのではないか、そもそも一般会計とは何なのかということは、市民の方々にとっては分かりにくいと思います。その認識をベースにしておかないと、危機感も半分ぐらいになっちゃうんじゃないかと思います。当然分かるだろうと思って書類を作ると分からない人が発生するということになると思います。

(委員長)

今の意見は本体も概要版も、ということですか。

(委員)

そうですね。用語に対する説明文がどこかにあったほうがいいのかと思います。

(委員)

確かに自分が分かっていることは、相手も分かっていると思ってしまいがちですけど、実は全然分からないことがあるので、相手の方が分かるような言葉で表現してあげないと理解が難しいと思います。

(委員)

県でも予算とか発表がありますが、予算書はものすごく分厚くて、ものすごく分かりにくくて、それをまた、概要という形でまとめても分からないので、新聞社がそれを見て新潟県の予算は今こういう状況になっていますというふうに分かりやすくまとめているような状況です。行政が出す資料をどこまで分かりやすいものにするのかというのは、よく考えなくてはいけないと感じています。私もこの資料を市民の方が全部最後まで読むのはなかなか難しいと思うので、概要のほうに力を入れるほうがいいと思いますが、それでもまだ難しいところが出てくるので、そこは広報とかで、もっとかみ砕いて説明していくのがいいと思います。

(委員長)

これまでの意見を踏まえると、市民向けに分かりやすくするために改善の余地があるということだと思います。

(委員)

第3章の施設の見通しのところに、令和27年、2045年と書いてありますよね。ということは、孫の代になっているわけです。そうすると、小学生・中学生の子どもたちが分かっても良いことなのではないかと思います。やはり将来を担う人たちが分かるように、絵でもいいので、将来関わる人のためになるような概要を作っていただきたいと思います。

(委員)

3章でいうと一般会計繰入金という言葉について、前章の使用料が少なくて足りないのをどこから持ってくるのか、という話の流れでも登場すると思うので必要だとは思いますが、ここを掘り下げても皆さんの心に響くのか、ということもあるので、この部分は薄くてもいいのかなと思います。

あと違う話ですが、市でも県でもいろんなお便りとか来ると、確かに皆さん分からない、年配の方は字を見ただけで分からないということを耳にします。ただ、行政側としては、説明不足だけは絶対駄目だし、だからといってこれを伝えてないというのも駄目だし、全て細かいところまで追いつめたいけど、伝わってないという場面が多いと思います。ですので、全世代を対象にしておきながらも、それでも少しピンポイントで分かりやすく、ここまで説明をしないと

いけないのかなという程度までかみ砕くといいと思います。

(委員長)

事務局としては難しいところだと思いますがいかがですか

(事務局)

どうしても数字が並んでしまうという部分と、説明も細かいところまでしていかなければいけない部分がありますが、分かりやすさを追求しつつ検討したいと思います。

(委員)

この市民サービスに影響がでるところについて、いろんな方とお話をしていると、具体的にどんな影響が出るのかと聞かれます。例えばゴミの袋が高くなるとか、体育館の使用料が高くなるとか、そういう具体例があれば、人にまた話せます。例え話でもいいので、市民目線で大変になると思えるようなものを書いてあると、それだけでも大分伝わりやすくなるかと思えます。

(委員長)

内容についてはこれまで議論して積み上げてきましたので、委員の皆さまはそれぞれ理解できているのですが、特に市民向けに発信するというところで、内容もさることながら、それを理解してもらう表現が重要だと思います。

次に第4章です。将来の経営課題については、前回の委員会で確認いただきましたが、いかがでしょうか。

一般会計繰入金という用語が何回か出てきますが、繰入金には、下水道会計の赤字を埋めている部分と、雨水部分のための繰入金があります。例えば11ページの箇条書である一般会計繰入金の補填は赤字を埋めているというイメージを抱かせるためのものでしょうし、四つ目の一番下の一般会計繰入金の増加は、赤字の部分と雨水の部分も繰入金の要素の中に入っているという認識をしていますが、これらは同じ一般会計繰入金になる。この辺りをどのように表現するかだと思います。課題の項目立ての仕方として、上の二つは汚水処理費を料金だけで賄えないという話で、燕市は1立方メートル当たり160円ぐらいかかっているけれども、料金だけでは足りないということを言いたいと思います。この辺りが40ページにも影響してしまうところがありますが、一般会計繰入金という用語が複数出てきてそれぞれ意味が違うけれど、全てがつながっている、というところもあろうかと思えます。書きぶりは難しいですが検討が必要かもしれません。

意見がないようですので、次に、第5章についてご意見等ありますでしょうか。

さきほど委員の意見でありましたように、経営目標が急に出てきたら、この数字の現状がないので比較できないというところはあります。

(委員)

今のお話に関連して、概要の話になってしまいますが、分かりやすくするために章立てにこだわらなくてもよいのではないかと思います。

(委員)

概要に何ページに詳しく書いてあるということが示されていると、概要を見つつ、興味があったり知りたいと思うことがあったら、本体を見ていただくようにできるといいと思いました。

(委員長)

今の2人の委員の意見を踏まえると、分かりやすいところを強調して、例えば詳細は第何章で、というかたちにして本体とリンクをとるというやり方もあるかもしれない。そうすると概要の書きぶりも自由になると思います。

本体の書きぶりについて、41ページと42ページはあえて分けているのでしょうか。

(事務局)

41 ページは基本方針とその説明があって、42 ページはその具体的な内容という構成にしています。

(委員長)

続きまして第6章についてはいかがでしょうか。

項目建てについてですが、第6章の項目立ての順番は決まりに沿ったものなのでしょうか。

(事務局)

総務省のマニュアルに沿った形としています。

(委員長)

将来予測に基づく収支改善といったときに、投資計画がないと予測が立てられないと思いました。当然この将来的な投資計画がどうなるかで財政計画も変わってくると思うのですが、最初に投資計画を示さなくてもいいのでしょうか。

(事務局)

投資に関する事項は第5章の2で記載はされていますが、順番としては最初だろうということかと思えます。

(委員長)

そうですね。投資計画がなければ将来予測は立てられないだろうと思いますが、この順番でと総務省が言っているのは何か違う理由があるのかもしれないと思ひました。

(事務局)

例えば第3章で施設の見通しを記載している項目があるので、そこで投資計画を少し見せるという方法もあるかもしれません。

(委員長)

投資計画といったときの投資には、設備投資だけではなくて企業債の話まで書くというのは標準的なのでしょうか。企業債の償還とかというのは財政というような気もしており、投資計画の中に書くのだろうか、と思いました。そこも含めてご検討いただければと思います。

設備投資の部分には、修繕も含まれますか。

(事務局)

修繕は含まれません。基本的には改築更新や新設です。

(委員長)

財政シミュレーションとしてはそこに維持管理とかも入ってきて、それが連動して設備が増えれば維持管理費も増えていくという財政シミュレーションになってくるということですね。

(委員)

56 ページのまとめのところ、例えば5の(3)、民間活力に関する事項においては、特に予定はありませんとなっていますが、5章の42ページ、上から三つ目にウォーターPPPの導入検討とかあるのでは一緒なのかどうなのか。何かここに導入検討ぐらいは書いておいてもいいのではないかなと思ひました。

もう1個下のところでも、資産活用による収入増加の取組についても、例えばこの42ページの項目の2番目、資源の有効活用に向けた検討ということで、検討ぐらいはここに入れてもいいのではないのでしょうか。特に予定はありませんと言い切ってしまうと42ページと矛盾してしまうと思ひました。

(委員長)

ちなみに民間活力に関する事項は投資なのでしょうか。

(事務局)

ウォーターPPPは投資も絡む話のため入れても悪くはないと考えています。

(委員長)

いずれにしてもこの部分は全体的に検討の余地があるかもしれません。

(委員)

資産活用の部分も特に予定はありませんとなっていますが、消化ガスの売電なのか、汚泥を売るのか、そういう話も以前出た気がします。予定はないということの関連で、特に予定はありませんと書いてあるその他の取組のところは逆に書かなきゃいけないのかもしれない、と感じています。

(委員長)

特出しすることがなければあえて書く必要はないだろうという考え方もあるかもしれません。

(事務局)

なければ消させていただきたいと思います。

(委員長)

いいと思います。

56 ページの 5 の (4)、6 の (3)、57 ページの 7 の (5) は消してもいいかもしれません。58 ページのロードマップに関する確認ですが、使用料の改定は令和 8 年、12 年に実施するという記述が出てきていますが、このタイミングぐらいでやっておく必要がある、という意図で示しているということでしょうか。できるだけ早く実現したほうがいいということを伝えるためのものと理解しています。文章の書きぶりについても、予定しますとか、行ってまいりますと書くのと戦略の文章として違和感があるので、併せてご検討いただければと思います。

(委員)

前回いろいろなシミュレーションをして細かい数字で示したものがあつたと思いますが、この計画は 54 ページのように 1 個ずつの項目について今後の推移を見るという形になっていて、全体的な推移で、5 年後この数字だといい、この数字だと悪いというような参考になるものを別につける予定はないのでしょうか。今のロードマップだと明るい予測も暗い予測も立たないように感じました。概要にある主要項目抜粋というものでもある程度見えますが、何か 1 個、指標になるのがあると見やすいと思いました。

(委員長)

ロードマップというものがその目標に向けてどうやって取り組んでいくのかというスケジュールを示すものになると思います。その中でこのタイミングでこれをやれば、少なくともこの状態は実現できるとか、掲げた経営目標を達成するためにはこうしていかなければならない、それに向けて、何年前にはこれをやらないといけない、ということ、丸をつけるというものもあるけれども、文章として示すやり方もあるかもしれません。具体的にはその背景にはシミュレーションがあつてタイミングが設定されているのでしうし、そのあたりが分かればいいのかという気はしています。

第 6 章についてはよろしいでしょうか。

次に第 7 章について、事前質問がありましたので説明をお願いします。

(事務局)

2 番の効果検証の部分で、2 行目の、目標値と実績値で著しく乖離があった場合とありますけれども、具体的に何%などといった想定はあるのかというご質問をいただいております。具体的に、例えば、目標値と何%乖離したからという、数値的な基準ですとか、想定というのは、現時点では定めていないところではあります、例えばロードマップに示した年度ごとの数値が達成されないような状況になるという場合などが該当するものと考えています。

(委員)

著しくというのは人によって感じ方も違うので、基準となるようなものを持っておいの方がよいのではないかとご提案したものです。

検討するに当たって、結果を見て例えば会議を招集しても1年後とか、すぐには招集出来ないということにもなるので、対策をとったらどうかというのは感じています。

(委員長)

この乖離の話を出さない一つ手法として、中間年度に検討するという書き方もあると思います。そうすると乖離の話抜きにして検討するということが分かるので乖離幅についての議論が消えるとは思いますが。現在は乖離した場合に検討するという書き方をしているので、どれぐらい乖離したら検討するのか、という話になってしまう。そうであれば、いっそのこと、このタイミングで検討しますと書いたほうがいいかもしれません。ただ、検討の仕方をどこまで書くかは難しいところで、59 ページの書き方ですと、会議体のところまでは特に明記はしないというのは理解出来ました。例えば、このような場を中間年度で会議体を立てて、改めて状況を見て順調ですねと言って終わるというやり方もあるし、庁内で検討してというやり方もあるかと思いますが。私としては、進捗状況確認はあったほうがいだろうとは思いますが、書き込むかどうかはこの文章のつくり手次第かと思いますが。事務局としては基本的には検討体はともかくとして、中間年度に改めて総合的に確認するということは考えていないのでしょうか。会議体の方法は置いておいたとしても中間年度にやるという書き方をする方法もあるように感じますがどうでしょうか。

(事務局)

見直しを中間年度で行うことをロードマップで示していますので、そのタイミングでは必ず検証は実施します。

(委員長)

そうであれば、乖離が生じた場合に、という書きぶりではないほうが良いと感じますのでご検討いただければと思います。

ほかいかがでしょうか。

(委員)

全般的に、一般会計という言葉がとても印象に残っています。一般会計は税金の財布のようなものかと思いますが、それを下水道課として足りないのくださいというふうに言うわけですが、どのタイミングで、どこに誰の判断で、そういう予算が幾らぐらいというふうに決めるのかを知りたいです。

(事務局)

一般会計からもらう方につきましては、通常の予算と一緒に、まず下水道課内で、どれぐらい費用かかるか、収入はどれくらいあるのかを見積り、収入と支出の差額を出しまして、あと下水道会計が持っている積立金などを加味しながら、収支の差引きで足りない部分を財政当局に打診します。財政当局は入ってくる税金も決まっていますので、その中で査定を行って金額が決まってきます。

一般的には、全部もらえるわけではないですけれども、ある程度は出してもらっているというところでは。

(委員)

予算を出せば、会計のほうで判断して出してくれるということですか。

(委員長)

もちろんそのあとに議会を経ますので、それが正当かどうかを議会で確認した上で最終的には出してくれることになります。

(委員)

今までの予算は大体すんなり出ているのですか。

(事務局)

下水道事業会計も急に赤字になったわけではなくて、もともとあった会計から企業会計に切替えなさいという国の指導があって赤字が表面化した部分があります。もともと積立てがあったわけでもないところからのスタートですので、不足する分については、補填してもらわないと成り立たないという構造が出来ていることもあり、ある程度予算付けがされています。

(委員長)

そんなにスムーズには出ていないと思います。もっと削れ削れと言われて、一生懸命削って、何とか財政当局に認められて、議会に出して、議会にも認めてもらっているということかと思えます。財政当局が出せるお金が限られているのは事実だと思います。

(委員)

危機感というものをどのようにして示していくかに関して、絵文字、ピクトグラムもしくはLINEでの泣いている、寂しい、困ったなどといった丸文字の顔を入れてあげることも考えられると思います。文字が読み取りにくいタイプの方もいらっしゃるの、その方もそれを見るとこれよくないなという感じが分かるので、すごく入ってきやすくなるのかなと感じました。

(委員長)

ありがとうございます。

今日の議論を通してですが、内容ももちろんですが、どうやって表現するかということが重要だと感じています。特に市民と密着している市役所という行政体だからこそ、そこが問われているような印象は強く感じました。

ほかいかがでしょうか。

ないようですので、その他ということで、何かご発言あればお願いしたいのですが、ありませんでしょうか。

ないようですので本日予定していた議題は全て終了いたしました。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。

ここで連絡事項ということで、本日、スケジュールの案を配らせていただきました。次回第7回につきましては、11月21日の木曜日、午後の2時から301会議室で、内容につきましては皆様から本日いただきましたご意見などを踏まえた戦略の修正案をご確認いただきます。また市長への報告内容の確認とさせていただきます。また11月25日に市長への報告ということで追加させていただいております。当初21日に一緒に報告する予定でしたが、スケジュールの関係で別日にもうけさせていただきたいと考えております。

以上で第6回燕市下水道事業経営改善戦略策定委員会を閉会いたします。大変ありがとうございました。